

令和 2 年 第 1 回 花巻市博物館協議会会議録

1 開催日時

令和 2 年 7 月 29 日午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分

2 開催場所

花巻市博物館 講座体験学習室

3 出席者

(1) 委員 10 名

佐藤由紀夫委員（会長）、浅沼昭男委員（会長職務代理者）、梅木康行委員、佐藤努委員、鎌田愛子委員、中島健次委員、畠山義範委員、佐々木さつき委員、平野榮一委員、大原皓二委員

(2) 事務局（博物館）4 名

佐藤勝教育長、高橋信雄館長、晴山弘之副館長、小原伸博学芸係長

4 議事

(1) 協議会会長の互選及び会長職務代理者の指名について

(2) 令和元年度博物館事業報告について

(3) 令和 2 年度博物館事業計画について

(4) 令和 3 年度事業に対する意見等について

(5) その他

5 議事録

（事務局 晴山副館長）

7 月 1 日から博物館協議会委員ということで、皆さまに辞令が出ている。通常であれば佐藤教育長から辞令を交付するところであるが、このご時世なので辞令書は机上に配置させていただきます。

（一同）

了解

（事務局 晴山副館長）

ソーシャルディスタンスの観点から机、イス、配置しました。窓を開けています。ご了承願います。

それでは、令和 2 年度博物館協議会を開催します。

（事務局 佐藤勝教育長）

本日、皆さまご多忙のところ出席いただきましてありがとうございます。また事務局からお

話がありましたように大変失礼な形ではありますが、辞令交付は略式をとらせていただきます。よろしくお願いします。そして、新たに委員をご承引いただきました梅木委員さん、鎌田委員さん、大原委員さん、どうぞよろしくお願いします。ご案内のように、この協議会は花巻市博物館の資料の収集・保管・展示に関すること、調査研究に関し全般にご意見を伺う会です。本日は令和元年度の事業報告、そして令和2年度の事業計画について話をし、ご意見を賜りたいと存じます。この博物館は開館から16年ということでございますが、新型コロナウイルスにより予定しておりました目玉であった特別展やテーマ展が開催されないことは近隣にあります宮沢賢治記念館や新渡戸記念館も同じであります。職員は感染防止、対人的な配慮ということで、お客様のご理解を得ながら、新しい様式でもって事業にあたっております。たしかに運営について非常に多くの制約がございますが、それを市民の博物館として出来ることはないのだろうか、ということで職員も工夫をして知恵を出して行かなければならないのでございますが、こんな時だからこそ皆様から、こんな事業、こんな活動をしてほしいなどのご意見をいただければと思います。今日はそれぞれご専門の立場から忌憚のないご意見をいただいて、より市民の皆様に親しんでいただける博物館として育てていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局 晴山副館長）

議事に入ります。(1) 協議会会長の推薦及び会長代理者の指名となります。協議会の会長につきまして、どのように選べばよいか、ご意見のある方はどなたかいらっしゃいますでしょうか。

（浅沼昭夫委員）

推薦をお願いします。

（事務局 晴山副館長）

はい、どなたかいらっしゃいますか。

（浅沼昭夫委員）

博物館に精通しております、佐藤由紀夫委員を推薦いたします。す。

（事務局 晴山副館長）

推薦ということで、佐藤委員を推薦するとご意見がございました。皆様いかがでしょう。

（一同）

拍手

（事務局 晴山副館長）

それでは佐藤委員さんということでお願いをいたします。

そして会長職務代理者につきましては、会長の指名ということになっていきますので、会長から指名していただいて、その後（２）からは会長が議長となるということになっておりますので、進行の方もお願いしたいと思います。

（佐藤由紀夫会長）

こうした時期ですので私もマスクをさせていただいておりますので、聞き取りにくいかもしれません。よろしくお願いいたします。職務代理者につきましては、前回と同じになりますけれど、浅沼委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

（一同）

よろしくお願いいたします。

（佐藤由紀夫会長）

では、職務代理者の指名をさせていただきましたので、今日の議事に入っていきます。今、教育長から忌憚のないご意見をというお話がありました。毎回同じようなことをお伝えしているのですが、新たに議員になられた方が３名いらっしゃいますので、この回の原則について再度お話しをさせていただきます。

博物館協議会は博物館法第２０条に則って設けられている会でございます。博物館法第２０条によりますと、館長の諮問に応じて意見を述べる会でございます。ここで何かを決める会ではございません。私に関わっている、文化財保護審議会ですと、最終的にそこで決めるわけではなくても文化財の指定をある程度決めていくわけですが、そうしたものを決めるのではなくて、意見を述べてそれを博物館の館長を中心としたメンバーが色々と参考にしていただくということですので、そうした意味でもご自由に忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。では、議事に入っていきます。

２番目です、令和元年度博物館事業報告について事務局から説明をお願いいたします。

（事務局 小原学芸係長）

事務局から令和元年度事業報告をしたいと思います。初めに資料の訂正がございます。１２ページ、テーマ展「花巻人形」会期の下※新型コロナウイルス感染拡大防止のため３月１日より休館となっておりますが、２日から休館しております。訂正お願いいたします。

それでは報告いたします。１ページから３ページまでは記載されているとおりですので省略させていただきます。

10.博物館事業の概要 (1) 調査研究活動当館の学芸員及び調査員がそれぞれ個別に設定したテーマに基づいて調査研究活動を行っています。また館内において調査研究発表会を開催し研究の進捗状況や成果の報告を行いました。花巻の考古・歴史・美術工芸そして教育普及活動を担当学芸員が調査研究をしました。内容などは掲載している通りになりますのでご覧いただければと思います。6 ページ目になります。(2) 資料収集活動、寛永通宝を始め花巻の風景の写真や台焼など計 1123 点寄贈いただきました。(3) 展示活動 1.期間展示 展覧会に合わせてミニ展示コーナーがございまして、そこに関連した資料を展示するものになります。5/16 から 6/12 まで「開館 15 周年のあゆみ」ということでこれまで開催しましたポスターなどを紹介しました。6/13 からは「多田等観の装い」ということで衣装などを展示しました。7/25 からは「花巻の土偶」を展示しました。9/19 からは花巻温泉どうぶつ園の絵葉書などを紹介いたしました。10/5 からは南部利剛公の展示をしました。現在は立雛を紹介しております。

2. 展覧会 テーマ展「花巻人形」展を 5/6 まで開催しました。入館者は 4,487 人になります。つづきまして「チベット仏教研究者 多田等観」と題しまして、6/15 から 7/15 の 31 日間で開催し、入館者は 1,470 人、展示内容としましては、高名なチベット仏教学者が、現地から持ち帰った仏像や仏画、花巻との心温まる交流を示す資料などを紹介しました。展示構成や関連事業は記載されている通りですのでご覧ください。開館 15 周年記念「発掘された日本列島 2019」同時開催としまして地域展示「花巻城―南部領の成立と展開」を開催しました。8/2 から 9/10、40 日間開催し入館者数は 3150 人の入館者がありました。展示内容としましては日本各地で行われている発掘調査の中から、近年発掘され、その調査結果が特に注目を集めた遺跡を速報で紹介しました。また、地域の特色ある埋蔵文化財を紹介する地域展では東北の近世幕開けの契機となった奥州仕置に注目し、花巻やその周辺が中世から近世へと移り替わる様子をたどりました。展示構成と関連事業は記載している通りとなります。続きましてテーマ展「収蔵資料展どうぶつ集合！」と題しまして 9/24 から 11/17 の 55 日間開催しました。入館者が 2702 人となっております。本展では収蔵資料の中から動物にまつわる資料を紹介し、動物と人間のかかわりについて探りました。展示構成と関連事業は記載している通りとなっております。11 ページ目となります。共同企画展「松川滋安と揆奮場」と題しまして 12/7 から令和 2 年 1/26 まで 51 日間開催しました。入館者数が 1092 人となっております。文武の藩学「揆奮場」を設立するため奔走した、松川滋安。苦難を乗り越えたこの生涯を明らかにしました。展示構成と関連事業は記載してある通りとなっております。12 ページ目になります。テーマ展「花巻人形～収蔵資料撰～」令和 2 年 2 月 15 日から現在開催しております。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月 2 日より休館、6 月 1 日から再開しております。関連事業はすべて中止といたしました。(4) 教育普及活動に入ります。1. 講座 館が主催する館長講座や学芸員講座、展覧会に呼応した各分野の有識者による博物館講座などを実施しました。また、博物館資料をもとに市民が歴史や文化について関心のある内容や、小学校の総合的な学習などに応じた出前講座を随時

行った。講座等開催実績は記載してあるとおりとなります。2. 体験学習 市内にある縄文時代や古代の遺跡から発掘された出土品をもとにした生活体験、アクセサリ作り、花巻の伝統工芸の周知と継承を目的にした制作体験、子供たちに人気の戦国時代に武具を活用した体験学習などを開催した。体験学習開催実績も記載してある通りとなっております。3. 博物館実習 学芸員資格にかかわる感務実習を当館「博物館実習生受入方針」に基づいて実施しました。実習期間は令和元年 8 月 31 日から 9 月 6 日です。3 名を受入ました。4. 職場体験実習 進路学習の一環として、申し込みのあった市内中学生 2 年生の職場体験学習の受け入れを行いました。7 月 3 日に石鳥谷中学校 2 年生 3 名を受け入れております。5. 教職員との連絡会議・研修会 博学連携の効果的な方策の探求と市内各地域の歴史や文化の理解の促進のために会議や研修会を実施しました。会議は 5 月 30 日と 2 月 17 日に開催しまして、先進地視察としまして、岩手県立博物館、岩手県立美術館に教育普及について研修を行いに行きました。博学連携研修会としまして 8 月 6 日に縄文時代の暮らし、発掘された日本列島 2019、多田等観について勉強しました。16 ページになります。11. 博物館の入館者状況 合計としまして 17,750 人となっております。内訳は記載されている通りとなっております。12. 石鳥谷歴史民俗資料館になります概要は記載されているとおりとなります。

(2) 石鳥谷歴史民俗資料館の事業報告 1. 学校団体等受入 2 月 4 日と 2 月 14 日石鳥谷小学校と新堀小学校の団体の受け入れをしております。2. 資料の貸出し状況 半纏・前掛け・手拭を各イベントなどに貸出しをしております。(3) 石鳥谷歴史民俗資料館の入館状況 合計は 1,118 人となっております。内訳は記載してある通りとなっております。13. 東和ふるさと歴史資料館は平成 27 年 4 月より休館中でございます。以上で令和元年度の事業報告となります。

(佐藤由紀夫会長)

ありがとうございました。それでは今の説明につきましてご意見・ご質問をお願いいたします。

(鎌田愛子委員)

資料の 16 ページ、博物館の入館状況ですけど、無料入館者というのは無料公開日にいらしたお客様なのですか。何か色々な要素があつてのものですか。

(事務局 晴山副館長)

無料入館者の方々の対象ですが、条例にあります通り、身体障害者の方、それに伴って入館なさる方、市内の小中学校の生徒、花巻市内に住所がある高校生などが無料入館者のところに入っております。それ以外にも細かくなると、結構な量になるのですが、今のところの部分では、条例を確認してまた発言させていただきます。

(鎌田愛子委員)

わかりました。あと、海外から花巻空港を利用していらっしゃると思いますが、海外の方もこちらに足を向けていただいているのでしょうか。

(事務局 晴山副館長)

海外からも来館していただいております。韓国・中国・台湾が多かったと記憶しておりますが、昨年 12 月頃からは外国の方々の入館はなくなってきております。補足で無料入館者のご質問で、市内の小中学校等々はお話ししましたが、先ほどお話ししなかったところでは戦傷病者の特別援護法の基づく方々という部分もございますし、旅行業者の方々に博物館を視察して宣伝 PR をしていただく方々、このような方々も無料入館者とさせていただいております。

(佐藤由紀夫会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょう。

(平野榮一委員)

資料としてもございませんし、ただいまの報告にもございませんでしたが、17 ページの石鳥谷歴史民俗資料館の下の 2 番、資料の貸出し状況という項目がございましたが、花巻市博物館では資料の貸出し状況とか、合わせて資料閲覧に研究のため閲覧させてほしいという方は年間、おおよそで良いのですがどの位あるのでしょうか。

(事務局 小原学芸係長)

おおよそですが、一年間で 50 は超えるのではないかと思います。資料閲覧は、資料の貸出しは博物館などに年間 10 件くらいです。

(平野榮一委員)

こういったものが多いですか。

(事務局 小原学芸係長)

考古の破片など土器とかです。あとは歴史資料、花巻人形もございました。

(佐藤由紀夫会長)

他にはいかがでしょう。

そうしましたら私から、これは意見ですので特にお答えいただく必要はありませんが、博物館においては調査・研究活動が一つの柱であることは間違ないわけでありまして、ここの博物

館においても4ページ・5ページに記載されているように、それぞれの学芸員の方々が研究活動を行っていることは、これを見るとわかるわけで、博物館の研究活動はこれも当たり前のことですが、その地域に根差した研究をしていくと、それを紀要ですとか年報ですとか色んな形で公表をして市民に還元をするということも大事ですけど、最終的に展示に繋がっていくということがですね、やはり展示するものは博物館では研究成果の公表というのが一番大きな意味身をもっているわけですので、その繋がりを意識しながら研究活動を是非やっていただきたい、もしかしたら今までも同じことを言ったかもしれないのですが、これを見ますといくつかのテーマは今までの展示に結びついていたり、これからも展示になっていくだろうなと思われまいますが、やはりその辺を意識してですね、何年間か研究が纏まったら、それは論文だけではなくて必ず展示に生かしていく、たとえば国立歴史民俗博物館ですと、展示のための研究活動のために全国の研究者を動員して、研究活動を5年間か6年間やってその成果を一般向けの講演会を一つやる、それと展示をやる、必ず一般向けの講演会、研究発表会に近いのですが、それに基づく展示をやるという形をしております、これはよく知られたことで、私などもその委員の関係者をしたことがありますけれど、やはり、最終的にはその辺を意識して研究活動をしていただきたいなと要望でございます。当然ながらご承知のこととは思いますが、一応念のために要望させていただきました。

他には、ご意見ですとか、ご質問はありますでしょうか。

では次の令和2年度博物館事業計画に移りたいと思います。

事業計画の説明を事務局からよろしくお願いします。

(事務局 小原学芸係長)

令和2年度博物館事業計画について説明します。資料は4枚になります。今年度は当初予定しておりました計画とだいぶ変更することとなりました。最後のページに付いております年間行事予定でしたけれど、これが変わって、次のページ、この様な状況になっております。それでは説明をしていきたいと思っております。現在は前年度から開催しておりました「花巻人形～収蔵資料撰～」を8月30日まで開催しております。続きましてテーマ展「花巻の煌めく人と物」令和2年9月19日から11月23日まで開催する予定です。展示内容は博物館所蔵の花巻のゆかりある人々が残した《お宝》を通し、花巻の歴史人物を紹介いたします。共同企画展としまして「小野寺周徳-花巻画人の先駆的存在」と題しまして12月5日から令和3年1月31日まで予定しております。展示内容は、花巻城出入りの医師の子として生まれた小野寺周徳。花巻地方の画人の中でも、先駆者的存在だった周徳の魅力に迫ります。続きまして、テーマ展「花巻人形」こちらは令和3年2月13日から4月4日を予定しております。次のページに行きますと、新しくなりました行事予定があります。講座やワークショップ、主催するイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止といたし

ました。以上で報告を終わります。

（佐藤由紀夫会長）

ありがとうございました。では令和 2 年度の博物館事業計画について、これにつきまして、ご意見ご質問をお願いいたします。

（中島健次委員）

コロナの関係で予定されていた展示が中止になっていますが、これについては来年とか、先送りになるのか、白紙になって新たに、浮世絵など興味があるのですが、どのようにになりますか。

（事務局 晴山副館長）

今年度中止になったものについては、来年調整出来れば来年度、例えば先ほど出ました浮世絵、これについては大阪の業者でございまして、その方々と今実際調整中なんですけど、開催していっているのですが、業者との調整そして全国に要望があるようで、中々調整しきれんかというところもあります。最後のところで令和 3 年度の展示活動事業の予定ということで、またご意見を頂戴したいと思っておりますが、今年出来なかったものについて来年考えているのが、「鉄道と花巻―近代のクロスロード―展、近世近代十北災害一件綴―東日本大震災から見た近代・近世の災害史―」ということで予定はしたいと思っておりますが、もちろん開催するには予算がどうなるのか、ということもございまして、今後財政サイドとの協議もしながら開催の方向で考えている現状でございます。

（佐藤由紀夫会長）

他にはいかがでしょうか。

今年の新しい計画と令和 3 年度の展示事業の予定が今日の審議の中にも入っているので、これを見ていただければ継続されるということがおわかりいただけたと思います。

他にはございますか。

では、皆さまがお考えになっている間に、ちょっと今の説明とはずれることですが、お伺いしたいことがあります。去年もお伺いしたことなのですが、文化財保護法の改定がありまして、昨年の 4 月に改定があつてそれに関わって花巻市さんでは地域計画を作られているその方向性で協議会に近いものを設けて協議を始めていると言う話を前回諮りました。文化財保護法の改正、文化財保護法自体が、文化財の保存と活用を目的としている法律はご承知の通りでして、活用という部分では当然ながら博物館が大きな役割を担ってくるわけで、今の政権は観光を重視している立場にあります。法の中には観光という言葉は一切出てなくて、元々教育的に活用するというのが趣旨だと私は理解しております。ですので、教育

的に文化財を活用していく、文化財事体がすべて観光に利用出来るわけではありませんから、教育ばかり活用していくとなりますとその要を担っていくのは博物館であろうというように、当然ながら考えているところです。それは私でなくても誰でもそのように考えていることだと思うのですが、段々去年では地域計画を検討しているところで、そんなに進んでいないということで、説明を承ったわけですが、地域計画全体の中でこの博物館の役割が変わってくる部分があるのか、今までと同じようなかたちでそれをより充実するという部分で変わってくるだと思いますけど、その辺りが地域計画の策定が進んでいけば、この博物館と文化財保護法に基づく地域計画の関係がどうなっていくのか、まだそこまで進んでいなければ、是非地域計画を考えていただく中には、活用の一環の中でこの博物館のことを念頭に置きながら考えていただきたいと考える次第です。いかがなものでしょうか。

（事務局 晴山副館長）

今、佐藤会長からお話があった件ですが、実際花巻市の場合は地域計画につきましては教育委員会の文化財課が中心になって策定を進めているところでありまして、今現在の状況、私が知りうる範囲でお話しさせていただきます。今、地域計画を策定するために、市内の振興センターがございしますが、コミュニティ会議といいます、コミュニティ会議に入りながら去年は10カ所程度だと思いますが、そこに入って地域の歴史や地域で残していかなければならないものなどの部分を聞き取りして歩いたと伺っております。それが計画にどういうかたちで盛り込まれるのか私の方でもわからないのですが、いずれその地域の状況をヒアリングしながら市として文化財をどういうかたちで活用できるのかという部分を計画に盛り込んでいきたい、という話は伺っておりますし、その過程の中で博物館も文化財保護法を活用しながら、もちろん展示も含めて、博学連携含めてそういう部分で携わっていければいいのかなという部分では考えております。

（佐藤由紀夫会長）

ありがとうございます。そうしたことを意識しながら博物館側でも少しコンタクトをとっていただきたいという意味もありますし、教育長さんもいらっしゃいますから是非、文化財の保護法で関わる地域計画の中で、そうした教育的側面を進めるうえでは、この博物館のあり方を色々考えなければいけないのかなと思っていますところです。質問させていただきました。

（事務局 佐藤勝教育長）

非常に大事な視点ですし、是非それはやっていかなければならないと思っております。地域と連携したかたちでの所謂教育、どちらかと言うと学校教育ではなくて生涯学習で活かすというふうなことでありますけれども、要望があった所ではやっていました。ただ地域計画について数年かけてやるということで進めていましたけど、正直に言うと非常に歴史文化に

昔から取り組んでいて関心の高いところがある反面、ワークショップなどを開きながらやっているのですが、沢山資料も出てきたりお話が出てきたり関心が高かったり、そう言ったことについてすでに研究なり調査を住民の方がされていますが、新興住宅地については全く地域のことはわからないということで、ワークショップを開いていただいて初めて地域にそういうことがあるところとがわかった地域もありまして、そういった面ではまず一つ啓発なのかなと考えております。それを年計画で進めようと思っていましたが、中々コロナの関係でワークショップも開けないということで、今年の前半期については実施出来ませんでした、これから後半期その分何とか回復しようということで今計画を変更して進めようとしているところでございます。で、これは石鳥谷の八幡と言う地域なのですが、先ほどお話ししたように、今地域のリーダーの方も世代交代していて、昔のようによくわからなかった。しかしそれを掘り起こしていただいて初めてこんなことが沢山あったという事がわかった、という事でそういった効果も上がってはきています。これを実施しながら歴史あるいは民俗、博物館に関わる部分での関心が高くなった部分については、これは博物館だけではなくて、例えば宮沢賢治に関する事、高村光太郎に関する事とか、様々な分野が出てきますので、それは市の博物館というよりは市内の博物館類似施設全体で取り組んでいかなければならない問題だろうと思っております。今、市のこういった博物館等の類似施設実は沢山あるわけですが、そこで連絡協議会みたいなものを数年前からつくってお互いに研究発表会をしたり、あるいは博物館の館長を中心に研修したりということで連携をしておいでしておりますので、そういった連携の中で地域計画を今後反映できるもの、それから住民のニーズに応じてやるべきこと、出前講座であるとか、そういったことの展開は博物館と担当している文化財課で調整しながらなんとか進めてまいりたいと思っております。あとその点については色々のご指導よろしく願いいたします。

(佐藤由紀夫会長)

ありがとうございます。花巻市は先進的な取り組みをしているという事で注目されている自治体の一つでもございますので、是非今後も進めていただければと思います。市民の皆さんもそうしたことをやっているということを出るだけ知っていただければありがたいなと思っているところでございます。そうしましたら、また令和 2 年度の博物館事業計画ですが、説明しました事業計画についてご意見やご質問がございましたらよろしくお願いいたします。

(佐々木さつき委員)

質問です。行事予定に講座・ワークショップなどのイベントは感染拡大防止のため中止となっているのですが、ワークショップの右の下のところに「体験学習はお申込みください」と書いてあるのは、これはまた違うものなののでしょうか。教えてください。

（事務局 小原学芸係長）

博物館自主開催をするものは中止という事にしました。黒い字で書いてある「体験学習は体験を希望する日の 2 か月前までに博物館へお申し込みください」というのは申し込んでくださった方は断らず受け入れていこうかという事で、博学連携ですとか小学校などの出前講座には出向いて行っております。

（佐々木さつき委員）

その際人数は何人とか決まっていますか。上限などは設けていますか。

（事務局 小原学芸係長）

上限は決めてはいませんが、なるべく 1 メートル・2 メートルとれるようなかたちでの講座を実施しております。

（佐藤由紀夫会長）

他にはいかがでしょうか。

（平野榮一委員）

毎年同じような質問で大変恐縮なのですが、報告の方の 21 ページですが、東和歴史ふるさと資料館の資料館系についてお尋ねします。今年度の計画として、ゆくゆくは資料は成島小学校と旧田瀬小学校の方に分散して資料を移すと、そして整備すると聞いていましたが、今年度はどの辺までで計画しているのでしょうか。併せて今年度の事業として、これはまったくの質問なのですが、東和ふるさと歴史資料館に現在収蔵されている資料、特に文書資料については目録など、このような資料があると整理されて博物館で保管なされているのでしょうか。という事をお尋ねいたします。

（事務局 晴山副館長）

東和ふるさと歴史資料館の資料関係の部分と移動関係を含め、今年度の計画という事でございましたが、結論から申し上げますと、資料の部分については先ほど平野委員からもお話があった通り、成島振興センターと田瀬振興センターに今年度内、出来れば年内中に移動させたいと思っております。資料の一覧はもちろん、全て整理が終わっております。終わっているという事で年内中に資料を成島振興センターと田瀬振興センター、成島振興センターとの物については歴史関係の資料、田瀬振興センターには民俗関係の資料を移転するという事で、遅くとも 12 月、年内中に終わりたいと計画中でございまして、そろそろ移転先の成島振興センターと田瀬振興センターの収蔵する場所の遮光をしなければならないという事もございますし、ある程度温度・湿度の管理、建物の修理・修繕をやっていこうと、それを終わって年内中には移動させたいと考えております。

(佐藤由紀夫会長)

よろしいですか。それでは他にご意見・ご質問はございますか。

よろしければ次の令和 3 年度事業に対する意見等について移って行きますがよろしいでしょうか。

では令和 3 年度の事業につきまして説明をお願いします。

(事務局 小原学芸係長)

では、令和 3 年度展示活動事業予定、一枚ものになります。こちらをご覧ください。特別展「光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界」令和 3 年 4 月 24 日から 6 月 6 日の開催を予定しております。今年度開催する予定でしたが来年度の開催を目指しております。続きましてテーマ展「鉄道と花巻ー近代のクロスロードー」と題しまして令和 3 年 6 月 26 日～8 月 29 日まで開催したいと思っております。こちらの展示も今年度開催予定でしたが、令和 3 年度に移行しての開催を目指しております。テーマ展「花巻の焼物」と題しまして令和 3 年 9 月 18 日～11 月 23 日の間で開催する予定でございます。共同企画展といたしまして「多田等観」を紹介する予定です。令和 3 年 12 月 11 日～令和 4 年 1 月 23 日まで開催したいと思っております。企画展「近世近代東北災害一件綴ー東日本大震災から見た近世・近代の災害史ー」と題しまして令和 4 年 2 月 11 日～5 月 8 日の開催を目指しております。この展覧会は今年度開催しようと思っておりましたけれど、令和 3 年度に延期しての開催を目指しております。それと同時開催といたしまして「花巻人形」展を同会期で開催する予定です。以上です

(佐藤由紀夫会長)

ありがとうございました。では去年までのこの協議会にはなかった部分ですが、1 年先までを今年は議題としてあげていくことになっております。今の令和 3 年度事業に対するご意見ですとかご質問をお受けしたいと思えます。よろしく願いいたします

(佐藤努委員)

令和 3 年度に限らず今後のことでもよろしいでしょうか。

小中学校の立場からお話しさせていただきますと、昨年度の事業報告にもありました、当施設の出前講座・出前授業のところでも小中学校の活用があつて良かったと思っているのですが、実際、当施設を体験する、展示を見学する、あるいは施設を見てまわる、そういった小中学生がすごく減っている印象がありました。私が前に博学連携推進委員をやった時には、常設展示を見るための小学校や中学校のワークシートを作ったりしたのですが、今後、

バスなどの色々な条件的な部分もあるとは思いますが、やはり小中学生がこの施設の展示を見てすぐためになるので、社会科または総合学習で、そうするために例えば博学連携推進委員がなにかどういったワークシートを、以前私は作ったりしたのですが、さらにまた作ったりする取り組みはあったりするのでしょうか。そのところをお伺いしたいと思っております。

（事務局 小原学芸係長）

ワークシートにつきましては、当館で常設展示を見るにあたりましてクイズ形式でシートを作りまして、小学校に、この様なシートがありますよと提案しながら進めたりしております。博学連携事業の一環としてやっております。4年くらい前からやっております、段々と出前事業の数や博物館を訪れる方々が多くなっているのではないかと考えております。

（佐藤由紀夫会長）

実際、小学生や中学生で来てくれる方は減っているのでしょうか。

（事務局 晴山副館長）

先ほども学芸係長からお話があった通り、増えてきているのが現状でございます。先生がおっしゃった通り、博学連携の部分では今年度は中止しましたが、毎年各小中学校を回って歩いて、このようなメニューがありますよと宣伝させていただいております。その部分で講座は、今年度当初はなかったのですが、ようやく予約が入ってまして、6月から出前事業の関係で数カ所行かせていただいていますし、今後もまた入ってきていますので、数的には去年より減ると思いますが、いずれ要望は市内各方から好評をいただいております、年々件数は増えてきております。

（佐藤努委員）

学年とか学級とかそういった団体で訪れるような、そういったようになってくれればと私も考えていました。

（事務局 晴山副館長）

実際、こちらに来館していただく件については、先ほど先生がおっしゃったように少なくなっている、これは何かという分析については、やはりバス等の移動手段、そう言う部分でお話はいただいた事がございます。その辺の部分を含み、こちらから迎えに行くわけにいきませんが、是非、今日、教育長もいらしていますのでその辺の話を入れていただいたら、移動手段を各学校でも、逆にこちらからのお願いですが、各学校で工夫を入れたような部分を作っていただきながら、是非博物館へいらしていただけたらと思っております。

（梅木康之委員）

小学校の立場として私もご意見がございます。3月まで奥州市の学校に勤めていました。奥州市では市内の施設を見学する際はスクールバスを時間帯によるのですが、支障の無い範囲で無料で出してくれました。ですので、遠いところは奥州市は平泉とも接していますので、中尊寺も希望を出せばすぐにバスを出してくれる。奥州市でその様な経験をしてきましたので、その様な配慮があると太田小学校の方からも来やすいのではと思います。今年は二学期にすべて行事を延期しました。現在校内学習、各学年の計画も煮詰まってきました。どうしても博物館の方まで低学年は来れないんです。花巻空港までとか、2年生は、という計画がありまして、バス代がネックというところを配慮していただければと感じました。ありがとうございます。

（佐藤由紀夫会長）

そうですね、私も他の市でも、こうした委員をしているのですが、盛岡市のこうした会議に出ますと、やはりバス代の関係が大きくて人数が減っている傾向にあると言われています。やはりネックになっているのはバス代なのかと一つあるところですよ。あと、宣伝にこちらの職員の方が小学校にまわっていると話がありまして、それなりに増えているという話がありましたけれど、例えばあまり小学校や中学校と縁のなさそうな、盛岡てがみ館という展示施設がございますが、数年前から小学校や中学校をまわって宣伝をしたり、もう少しわかりやすい展示の中に小学生向けの文章を入れてみたり、そうした工夫をされていて小学生や中学生の利用が増えたと言っておりますので、宣伝のために手間はかかりますが、学校をまわるというのは大事なのかと思っていますところですよ。以上です。

他に令和3年度事業に対する意見等についてございますでしょうか。

（浅沼昭夫委員）

テーマ展について伺いたします。鉄道と花巻の関係ですが、東北本線は勿論ですが、花巻電鉄は資料には軽便鉄道があるわけですけど、その後、釜石線があるわけですけど、どの範囲を網羅するのか、絞ってやるのかを伺います。

（事務局 小原学芸係長）

鉄道と花巻という事で、こちらは東北本線、花巻電鉄、軽便鉄道の3つ鉄道を紹介する予定でございます。そして近代から現代にかけまして、どのように発展したのかを探っていく展示内容の予定になっております。ですので、3つの鉄道会社を紹介する予定です。

（浅沼昭夫委員）

新幹線花巻は請願駅なのですが、入りませんね。

（事務局 小原学芸係長）

はい。そちらまで手を伸ばさず、まずは明治の3つの鉄道になります。

（佐藤由紀夫会長）

他には令和3年の事業に対するご意見ご質問はございますか。

（大原皓二委員）

令和3年度の展示の中で一番上にある特別展の事をお訊ねします。先ほど副館長から新年度予算との絡みもありますので、他館の要望も多いような趣旨のお話がありました。これは確定的なのかどうかお尋ね申し上げます。

（事務局 小原学芸係長）

特別展の肉筆浮世絵の世界展ですが、こちらは期間と開催するというのは、まだ予定でございます。4月から開催したいことは企画会社には伝えております。

（佐藤由紀夫会長）

では、他にはいかがでしょうか。

（浅沼昭夫委員）

企画展の関係ですが災害が多い昨今ですので、東日本大震災からのと書いてありますが、それ前のものは組み込む予定はありますか。例えば冷害とか飢饉とか台風とか色々な災害があるのですが、それをお伺いします。

（事務局 小原学芸係長）

近世・近代の災害という事で、台風、冷害、そういったものも全て含めたものになります。あとは今年流行になりました疫病なども取り込もうと予定でございます。

（浅沼昭夫委員）

災害に関する石碑が各方面にあるのですが、歴史を紐解く時にはそういったものが非常に参考になるのではないかと思います。そういったものは組み込む予定になっていますか。

（事務局 小原学芸係長）

石碑などは、これから調査にあたるとありますが、まず古文書から読みとっていく感じかと思っておりました。今後一年かけまして調査していきたいと思っています。

(佐藤由紀夫会長)

他にはいかがでしょうか。

では、その他に移っていきます。今まで見てまいりました、事業報告、事業計画、或いは令和3年度も含めた事業計画、それ以外に館全般に関することでも構わないと思うのですが、ご質問ですとかご意見がございましたらお願いいたします。

特にございませんか。では司会を事務局のほうにお戻しいたします。

(事務局 晴山副館長)

佐藤会長、議長ありがとうございます。議事が終了という事で、6番次第の4番目その他という事で全て網羅した部分で皆さま方から何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは閉会を高橋館長から一言いただいて閉会にしたいと思います。

(高橋信雄館長)

長い間熱心にご議論いただいてありがとうございます。博物館16年目を迎えておりますけれども、ちょっと話に出てきました博学連携、これは初年度からこの博物館の開館当初から一つの大きな柱にしているのが博学連携、学校と博物館がどのように連携していければ良いか、というのは、開館当初から大きな目的でして、これを更にもう少し工夫して色々していけるのではないかとという事で、博物館は学校のどのような部分をお手伝いできて、花巻の子供達にどう理解してもらえるか、博物館の非常に重要な部分というのは資料を持っているという事でございまして、その資料を子供達に実際に見てもらえる、これは大きなメリットだろうと思っておりますので、今までは博物館に来てもらうというのが主でしたが、こちらから学校に出向くことも含め、資料を貸し出す、物だけでもどんどん出す、というようなことも含めて博学連携も今後も更に連携を深めていきたいと思っておりますのでご指導よろしくお願いいたします。それから、来年度の事業に関しまして、災害については、東日本大震災から10年目という事で企画したものですけど、今回の新型コロナウイルスとか、実話、博物館の日本の最初の企画展は大正時代のコレラの展示でした。今の科学博物館の全身だった、教育博物館の最初の企画展はコレラだったという事になっておりますけれども、そういったものでも新たな視点、身近なものにも目を向けてそういった企画展も色々考えていきたいと思っておりますので様々なご意見を先生方や委員の皆さまからのご意見を十分に踏まえてこれからも博物館活動をやっていききたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局 晴山副館長)

以上をもちまして閉会とさせていただきます皆さまご苦勞様でした。